

Origami Tanteidan Newsletter 折紙探偵団新聞

37号

新連載



第一回・入門一步前の前編

哲学とは理論ではなく行動である。
L・ウィットゲンシュタイン

【論理哲学論考】

「哲学」という言葉は、ギリシャ語の φιλοσοφία (フィロソフィア) に由来します。この言葉を文字どおり訳すと、「知を愛すること」となります。

「科学」という言葉は、「分科の学」を表します。なにか特定の対象について研究するのが科学です。その意味で、哲学は科学ではありません。哲学に特定の対象はありません。哲学とは考えるということだといってもよいでしょう。「折り紙って一体なんなのだろう」と考えることは立派な哲学です。この文章は、「折紙の哲学」入門であると同時に、折紙の「哲学入門」でもあります。

「語の意味」とは何か

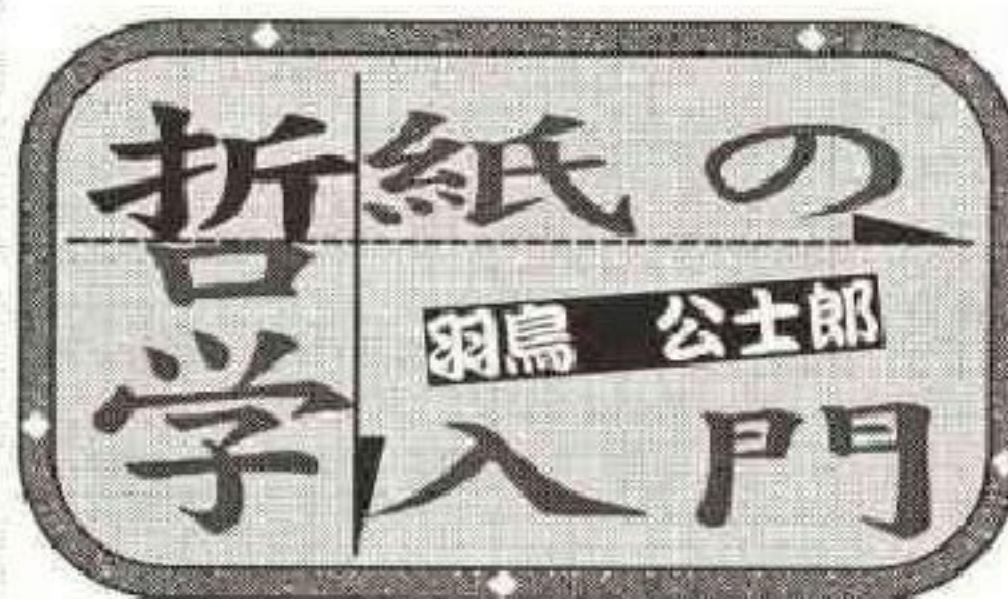
私たちは世界を、(広い意味での)言語によって認識しています。名前をつけるということは、AであるものとAでないものとを区別する作業です。「赤」という語があって初めて、連続した七色のスペクトルの中で赤とそうでない色を区別することができます。もしも言語がなかったら、私たちにとって、世界には何も存在しないことになるでしょう。

さて、語の意味とはなんでしょう。か。「赤」という語は、「純粋な赤の概念」を指し示しているのでしょうか。

私たちは他人の心の中を直接覗くことはできません。私たちは、ウィットゲンシュタインの言葉を借りれば「言語ゲーム」に参加していて、その外ではコミュニケーションは成り立たないのです。したがって、「純粋な

赤の概念」があったとしても、私たちはそれを共有することはできません。それならば、言葉が、言葉の外にあるなにかを指し示していると考えことは無意味です。

一つの語は何かを指しているわけではありません。ウィットゲンシュタインによれば、語の意味とは日常の



言葉の中における使い方にはかなりません。「赤」という語の意味を理解しているということは、「この石板を赤く塗れ」という命令に適切に対処したり「赤い花を見たことがあるか」

**Die Philosophie ist keine Lehre,
sondern eine Tätigkeit.**

Ludwig Wittgenstein

„Tractatus Logico-Philosophicus“

という質問に適切に答えたりできるということです。

「折り紙」という語

では、「折り紙」という語はどのように使われているのでしょうか。実は、「折り紙」という語には、いろいろな使い方があります。

例えば「明日「おりがみはうす」に

いって折り紙を買ってこよう」という場合があります。また「私の趣味は折り紙です」という場合もあります。さらに「彼女の折った折り紙はきれいだ」という場合もあります。みな「折り紙」という語を使っていますが、使い方が異なっていることにお気づきでしょうか。

そのことをはっきりさせるために、それぞれの文の意味をなるべく変えないようにして、「折り紙」のところに別の表現を入れてみましょう。第1の例では、「折るための紙」を入れるとよさそうです。2番目には「紙を折ること」を、3番目には「折った紙」をそれぞれ入れることができます。つまり、「折り紙」という語には少なくとも3つの使い方があります。これを「折る前」「折る途中」「折った後」といいかえることもできます。

もちろん、3つのうちのどれにもあてはまらない使い方があってもおかしくないし、2つ以上にまたがって使われることがあるかもしれません。また、同じ文の中で使われていても文脈によって使い方が違うということもあります。私

たちが普段何気なく使っている言葉は、実はとても複雑です。

日常生活の中にこのような「驚き」を発見したら、あなたは哲学の門の前にいます。さて、次回は門の前をもう少し散歩してみましょう。

ご意見、ご感想、ご質問、ご反論等
どしどしお寄せ下さい。



折紙辞典

まーも

折紙辞典編纂室編

主幹 前川 淳

まえがわ じゅん Jun Maekawa

■似顔絵ではコーヒー(?)を手にしていますが、故あってコーヒー断ちをしています。

まえがわでいり【前川定理】

《名》折り線についての以下の定理。「1面に折り畳める折り線において、平面上の1点に集まる山線と谷線の数は2である」(ここで述べているのは「1点に集まる山線谷線」についてであり、「折り紙界に集まる海千山千」についてではない)

まくようにおける【巻くように折る】

《動》折り紙の基本技法のひとつ。巻くのではなく「巻くように折る」である。ひねるのではなく「ひねるように折る」である。切るのではなく「切るように折る」である。とにかく折る。これが折り紙の極意だ。「巻くように折る」の記号は、矢印がくるくると2回転しているものである。1回転矢印は「ひっくり返す」で、これは「ひっくり返すように折る」ではない。

まっきんとっしゅ【Macintosh】

《固有名》Apple コンピュータ株式会社のパーソナルコンピュータ。愛称 Mac。近年折り紙界にもコンピュータを使う者が多くなったが、そこでは Mac のシェアが圧倒的である。世を挙げての Windows95 攻勢にあっても、それが揺るぐ気配はない。イラスト描きではまだまだ Mac に一日の長があるということだろう。ちなみに、折り紙愛好家御用達の製図ソフトウェアは、世間のシェアが第1位である Illustrator ではなく、FreeHand である。FreeHand が最も折り紙の図に適していたということで、折り紙愛好家のマイナー好みによるものではない。そもそも、誰が折り紙愛好家がマイナー好みだなんて言ったんだ。(Mac だってマイナーじゃない)

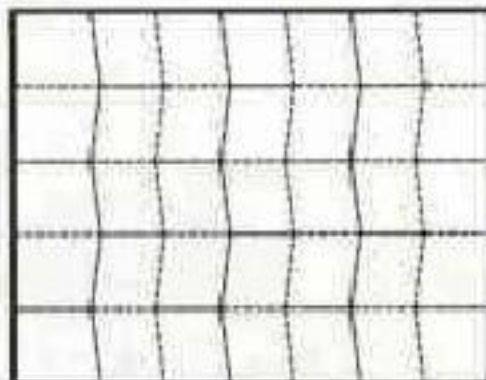
まんねり【mannerism】

《名》・・・きくつ。

みうらおり【ミウラ折り】

《名》シート状の素材を折り畳む研究

から生み出された、最も効率的な折り畳み方の技法。展開と折り畳みがワンタッチでできる。三浦公亮氏によって、宇宙空間の面積建造物(アンテナや太陽電池パネルなど)をロケットに格納する方法として考え出された。いわゆるミウラ折りという場合、同氏による地図の折り畳み方を指す場合がある。三浦半島の地図をミウラ折りして折り畳むのも一興だ。



ミウラ折り

みすぶりんと【misprint】

《名》どうひっくり返しても内容が理解できない図、意味が取りづらい文章などの原因。すべてはこれの問題であり、作者や著者には責任はない(わけはない)

みたて【見立て】

《名》なぞらえること。西川誠司氏は、折り紙の造形が持つ重要な特徴を、一般の絵画・彫刻とは異なり、一枚の紙から必然的に生み出される造形を事物に見立てることにあるとした。庭を極楽浄土に見立て、裏山を須弥山に見立て、一杯の碗を海に見立てるといった日本文化の特徴に連なるとみれば、この論の裾野は思いの外大きい。紙を一枚取って「究極の作品、風呂敷」というのは有名な話。実にお気楽ですばらしい。

みやしたあつし【宮下温】

《人名》卒寿を迎えて数年経つ折り紙界の生き字引。(なお、当辞典は折り紙界の権威字引) 最近ではコンピュータ(Macか?)で図を描くことに意欲

を示していると聞く。折り紙界には長寿が多いという説を聞いたことがある。本当にそうだといひね。

むすびぶみ【結び文】

《名》便箋を折り畳んで五角形の結び目をつくったもの。懸想文(ラブレター)に使われたとの説がある。「結ぶ」ということからの説であろうが、中を読むためにはそれをほどかなければならない。さて困った。

めぐろとしゆき【目黒俊幸】

《人名》折り紙分子論の提唱者。折り紙設計理論をわかりやすく整理発展させた逸材。理論の成果として、虫がいったい飛んだこと、ウニの図を描く者が悲鳴をあげたことなどがある。

めん【面】

《名》線の軌跡として生じる図形。「折り紙は線と面の芸術である」という言い方もある。次元を落とすと「点と線」となり「東京駅の疑惑の4分間」を思い出す。などという話はこの際関係がなく、「ひとつ次元を落とした折り紙」とは、ずばり「一筆書き」だ。すなわち、「折り紙とは高次元化した一筆書きである」とも言える。

ももたによしひで【桃谷好英】

《人名》多彩、多作で知られる折り紙作家。家族のみなが折り紙を楽しみ創作をすることから、「桃谷ファミリー」としても知られる。これに對抗できるのは、一人娘がコンピュータ(Macだ)による図描きに挑戦し始めたという山口ファミリーか、複雑な創作をものにする長男を擁する川畑ファミリーか。名前からいうと、山口ファミリーが強そう。

もんとろーる【Montrol】

《人名》John Montrol。アメリカを代表する作家。自らを設計家と任じ、きれいな紙できれいに折るということには興味がない。きれいな服装で着飾るということにも興味がない。モンちゃんと呼ばれている。

岡村昌夫

第24回

おりがみ庵



おかむら まさお Masao Okamura

■定年退職後多忙になったのにパソコンまでやりだして困っている。

[去年の夏のお話し]

紹介する機会がなくてすっかり旧聞に属することになってしまったが、去年の8月はじめ、NOAのシンポジウムで長野県の上山田温泉へ行った帰りであった。

布施知子さんのお住まいが近いのでお寄りして、山口さんたちがキャンプへ行くと言うので車に同乗させてもらうことにした。実はよく聞いてみるとキャンプとはペンションの名だったのだが。

途中の山道が面白かった。姥捨山の頂上付近を通ると、確かに昔の文人たちがあこがれた月の名所らしい風情があった。深沢一郎の小説では途中に「七曲がり」という難所があるのだが、ここにはなんと「四十九曲がり」という道標があったので驚いた。早速、地図を出して調べてみて更にびっくりした。近くに「千曲がり」があるではないか。と思ったら、何のことではない。「千曲川」だった。

翌日、松本へ寄ることになったので、私は以前から気になっていたことがあるので松本民芸館というところへ行ってみたくて言い出したら、皆が(しかたなしに?)同行してくれることになった。

気になっていたこととは、荒木真喜雄さんの書かれた本の中に「松本民芸館所蔵の糸屑入れ」という折りすえ(たとう)があり、その写真を見ると、宮下温翁がかつて折り方を紹介されたものとよく似てはいるが違っていた。宮下翁のは不切であるが、荒木さんのは切ってあるはずだと思われるものであった。思いがけず、しかも折り紙仲間と松本へ行くのだから是非民芸館とやらで確認したいものだと思ったのだ。

[松本民芸館へ]

民芸館へは電話連絡も何もしない

で突然押しかけることにした。布施さんや木下一郎さん、吉野君などのソウソウたるメンバーで、突然行けば、先方もむげには扱えないだろうと思った当方の作戦は果たして極めて有効だったのであった。個人の博物館かと思ったら公立で、しかし学芸員等はいない。

「たとう」と言っても「折りすえ」と言っても通じない。まして「糸屑入れ」ではキョトンとされるばかりである。それでもずいぶん親切に探してくれた。目録等は整っていない。1点ずつ写真にしてカードに張り付けてはあるのだが、専門家がいないので題目がつけられないのだそうだ。しかたなくた「和紙製品」と書いてあるものを何点か抜き出して見たが、写真も驚いたことに外側の大きな包が写っているだけで、中味がわからない。結局2枚のカードに絞って実物を見ることにした。ところがそれからが大変だった。

収納場所は「筆筒の引き出し」ということだが、ずらりと並んでいるどの筆筒だか分からない。しかも、かざ類が仕舞ってある引き出しのかざを持ってきてもらって、山ほどあるかざを出したが、整理されていないからどれがどの筆筒のかざだか分からないのだ。私はついに断念して、係の人に礼を言って帰ろうとした。ちょうどそのときだった。布施知子さんの超能力が発揮されたのは。

布施さんが差し出す或る筆筒の或る引き出しの鍵穴に、そのとき係の人が手に持っていたかざがぴたりと合ったのだ。それが奇蹟の始まりだった。間もなく目指す品物が、その引き出しの中から発見されたのだ。

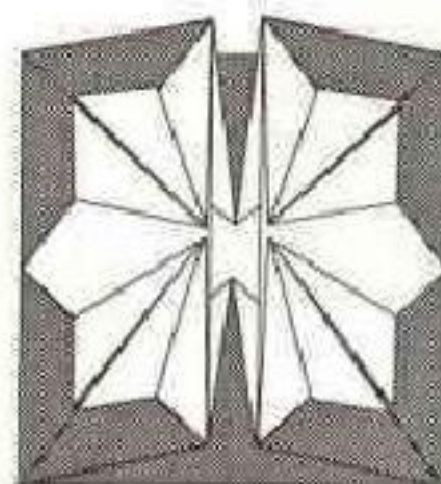
その直後に発行された「をる」No.10の34ページに、荒木さんが「松本民芸館の所蔵品を私なりの紙の使い方で模倣したものです」として

載っているものと、もちろんそっくりな形であったが、糊付けしてあったので切り込みの状況は不明だったので、私なりに真似して見たのが、荒木さんのと同じかどうかは、まだお聞きしていない。

[諏訪へ]

松本で皆と別れて諏訪へ寄った。「をる」No.8の65ページに私が「諏訪千野家伝来の六歌仙」として挙げたものが、実は「鮎沢家」の間違いであることがわかって、この機会に見せて頂くことになったのだ。長いこと雛人形と一緒に飾られてきたもので、実物の衣装のすそをめぐって見せていただいたりして、表から見えない部分で凝っているところもあって面白かった。肩ぎぬを付けたような形が特徴的で、いかにも武家の伝来らしい。三井家伝来のもの等とはかなり違った印象である。残念ながら喜撰が欠けているので、補作して差し上げることにした。

実は六歌仙以外にも2点の折紙が入っていたはずであった。数年前に博物館に展示したときの写真には、アヤメ(四弁)と人物らしきものが写っていたのである。ところが見せて頂いたときにはすでにアヤメが失われていた。残念なことであった。

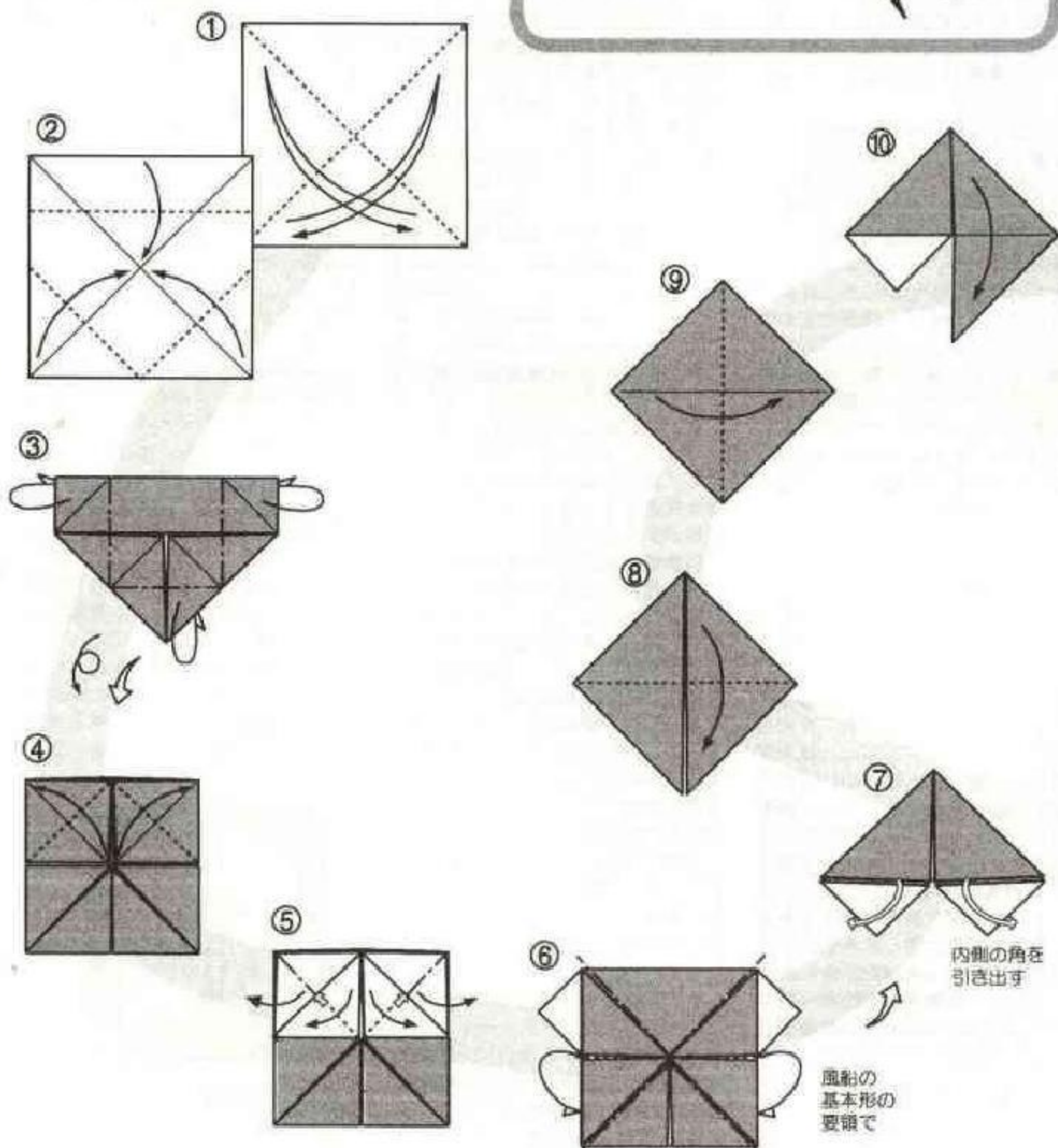
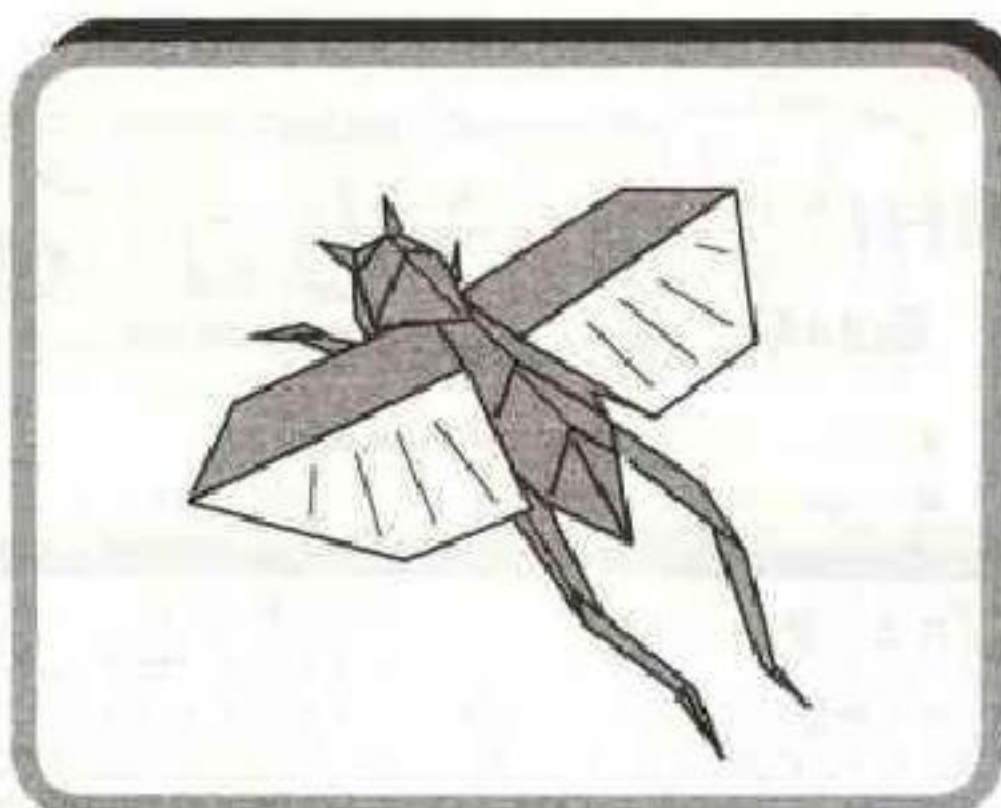


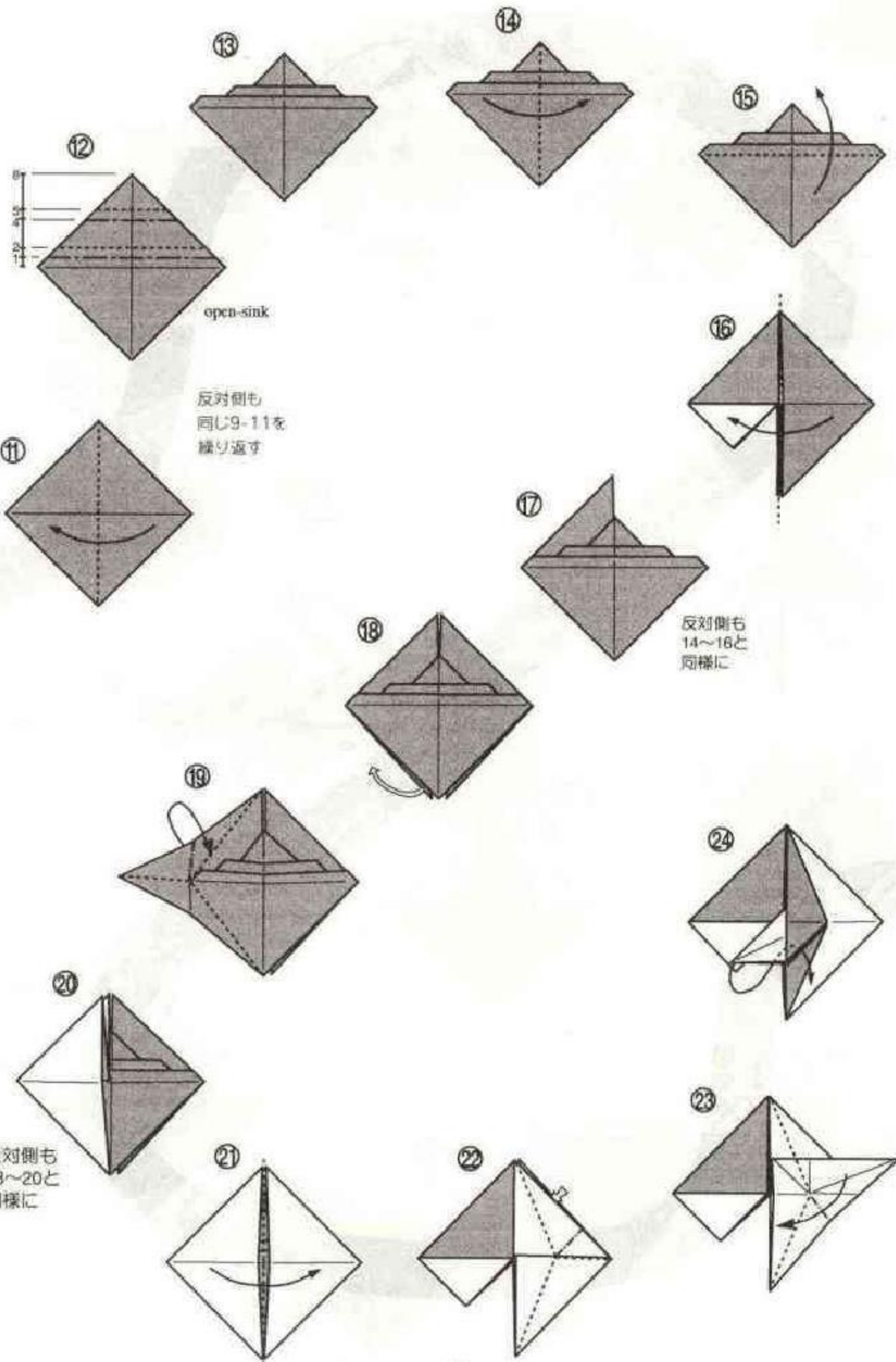
「松本民芸館所蔵の糸屑入れ」より3x2の用紙に切り込みを入れて折る

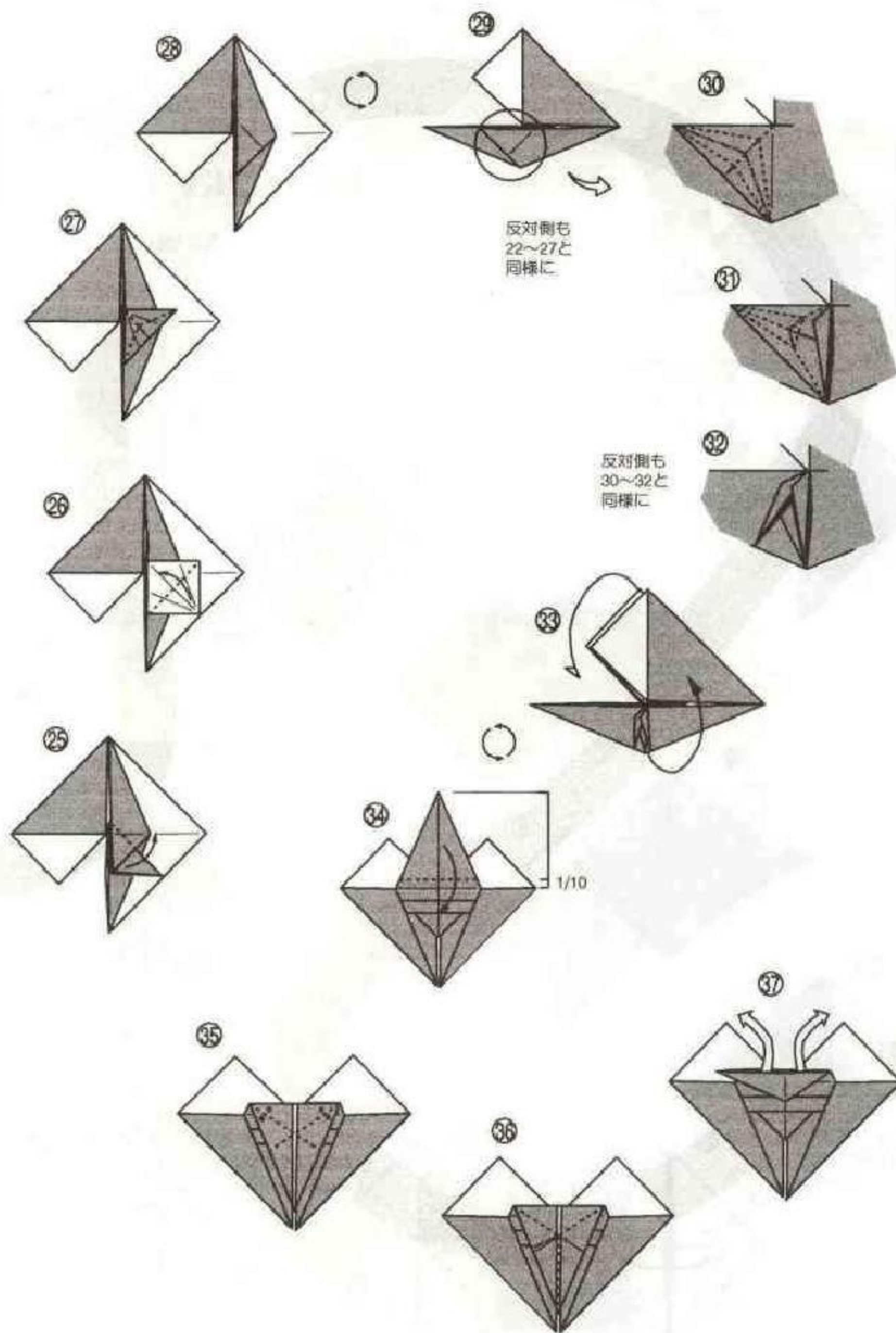
翔ぶ トノサマバッタ Flying Grasshopper

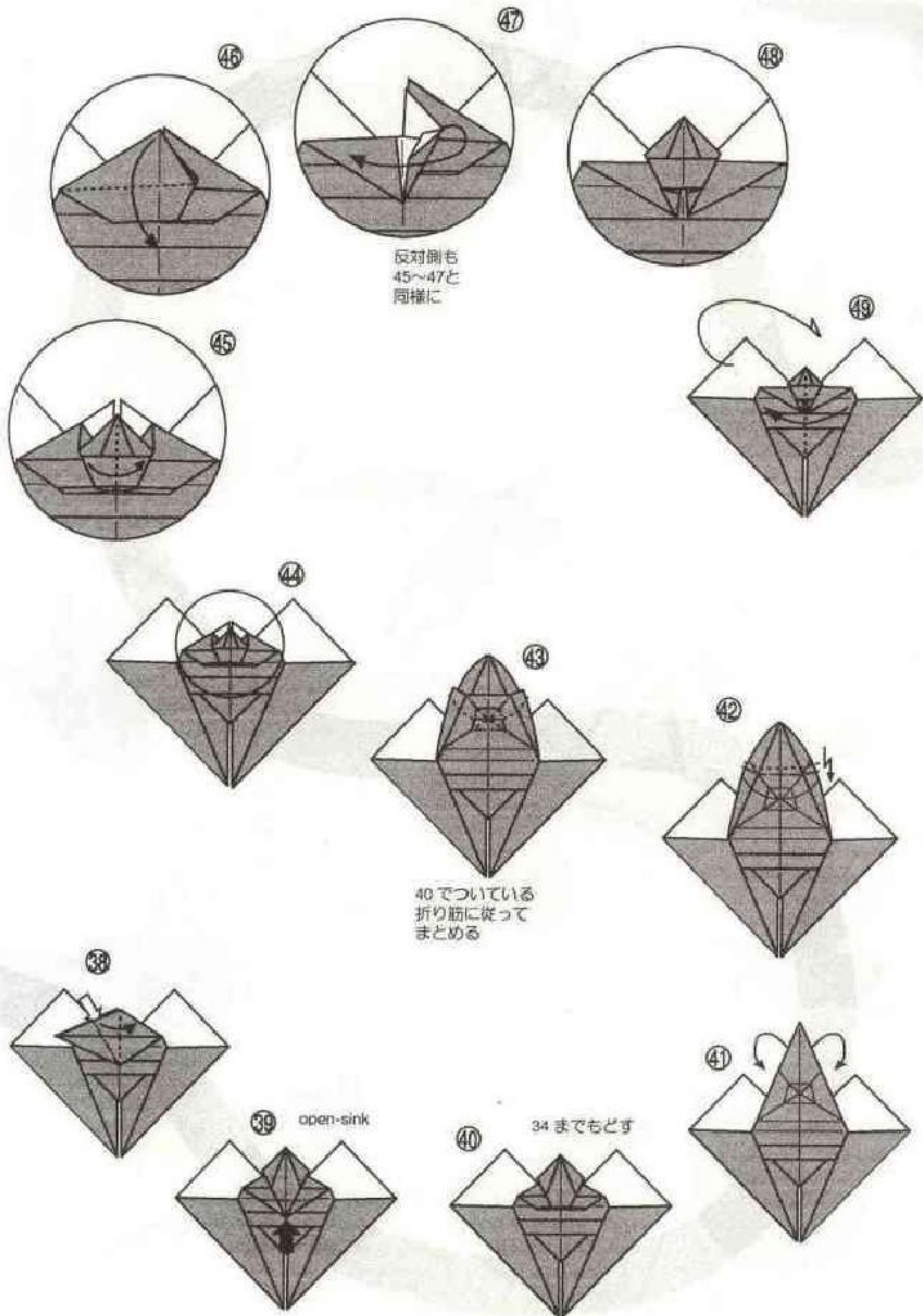
西川誠司 作・図；1995・1996

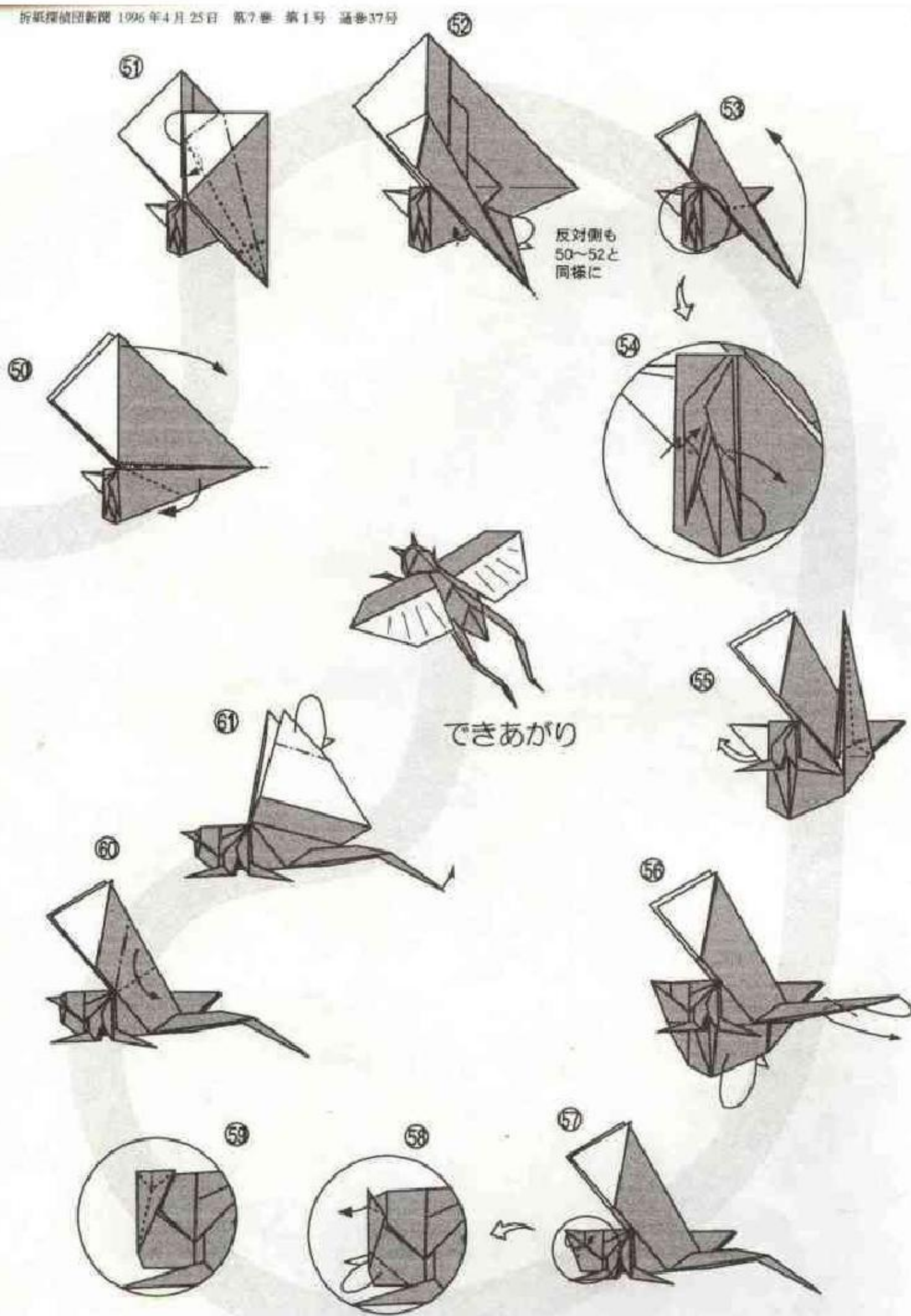
Seiji Nishikawa







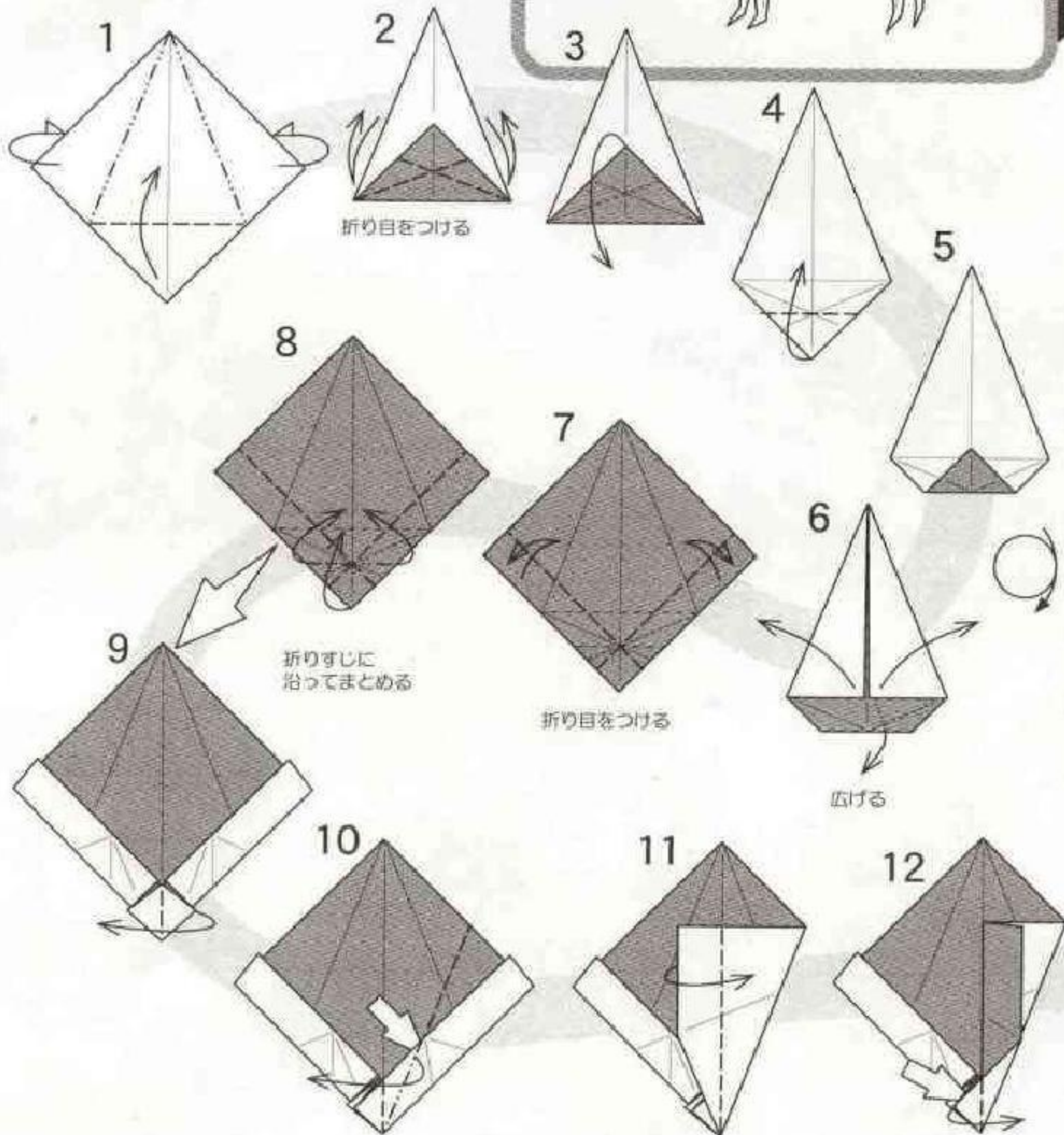
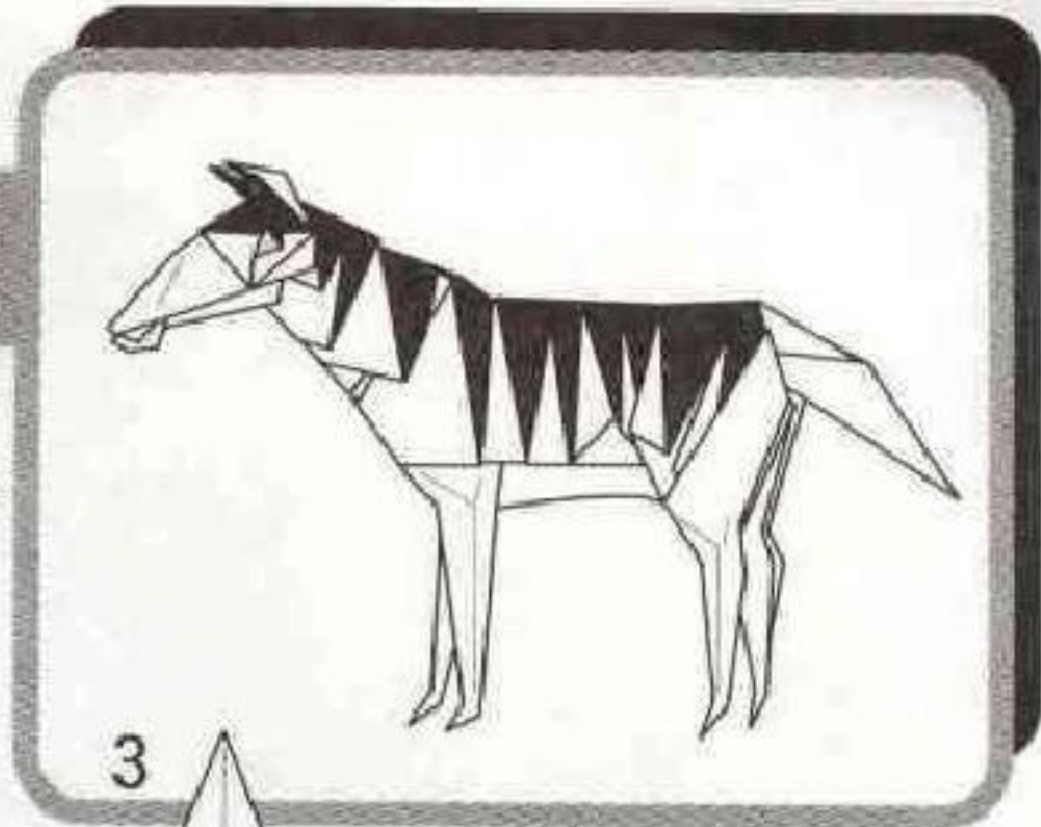


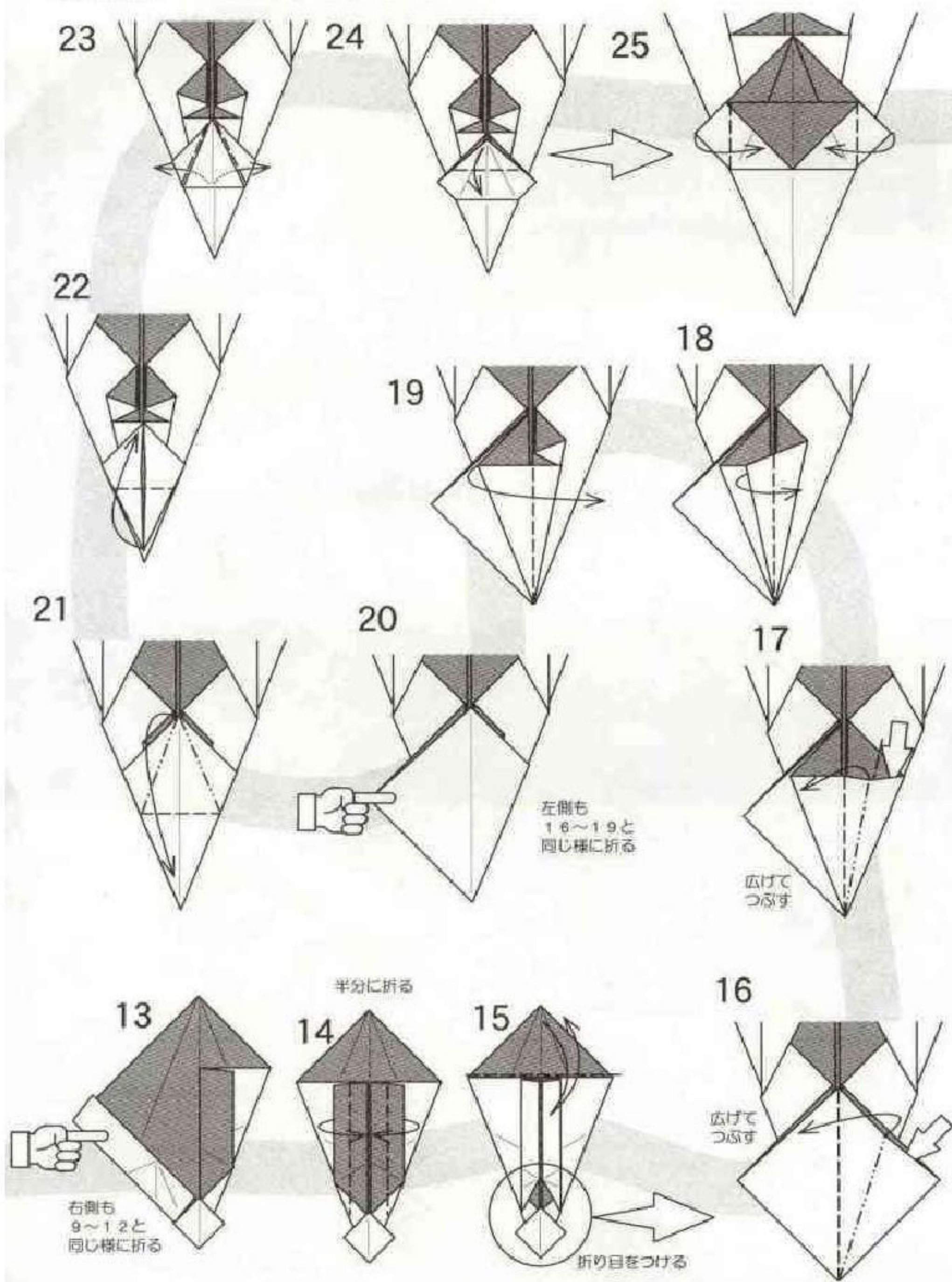


しまうま

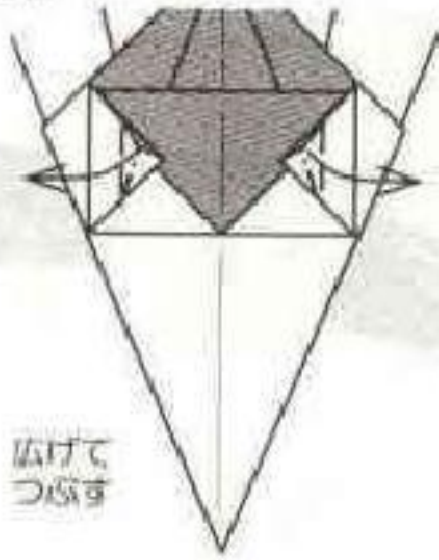
Zebra

川畑文昭 創作1989 作図1995
By Fumiaki Kawahata



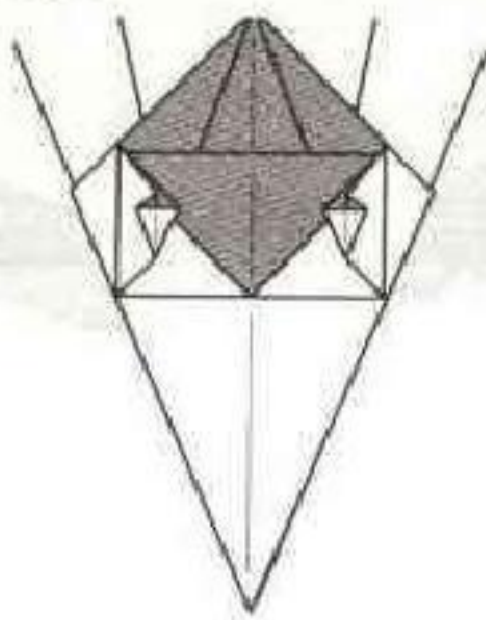


26

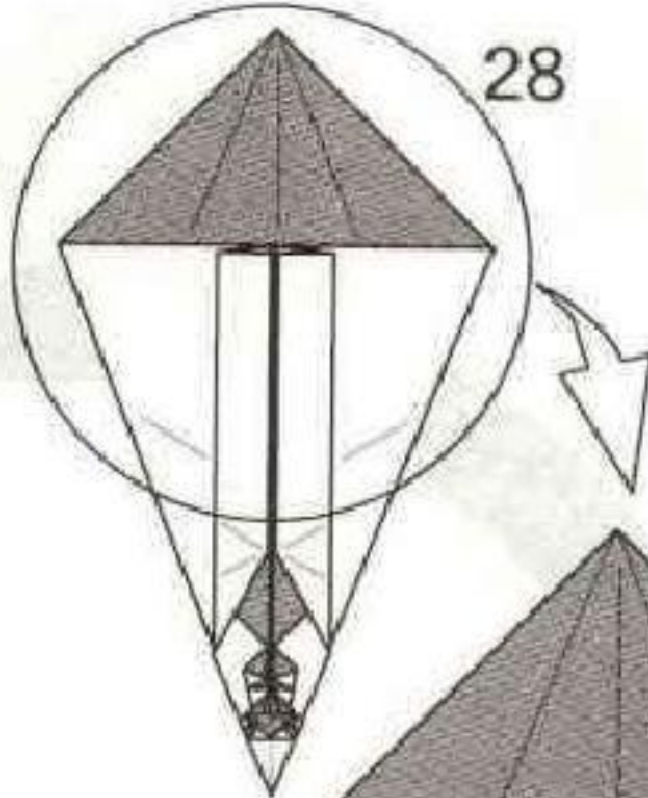


広げて
つぶす

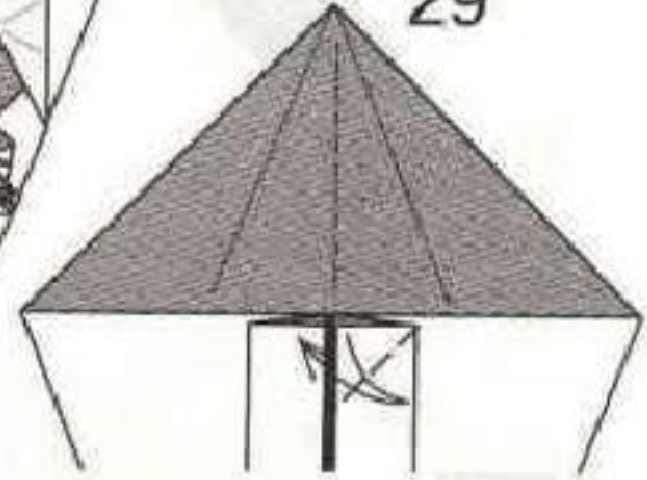
27



28

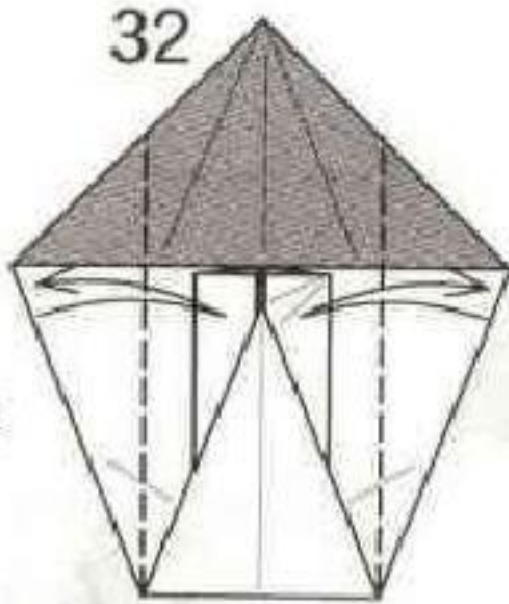


29



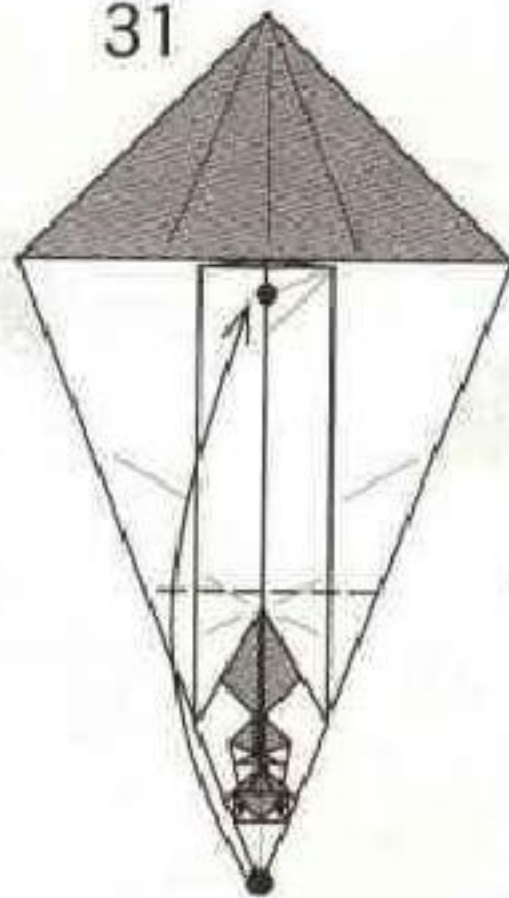
折り目をつける

32

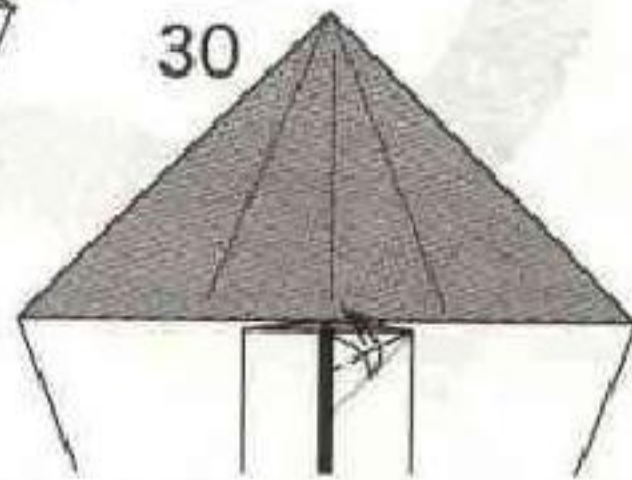


折り目をつける

31

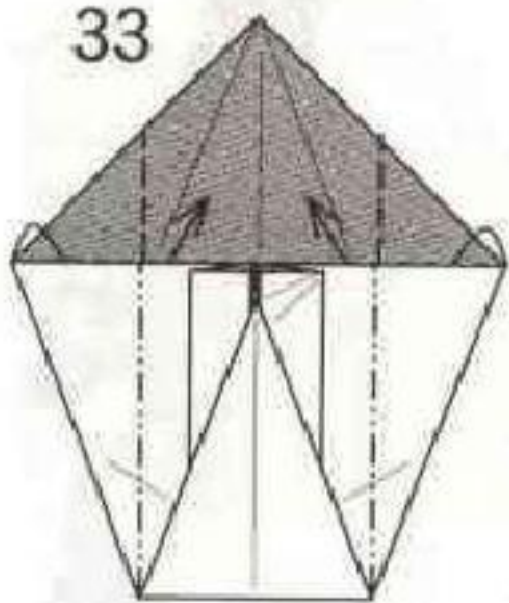


30



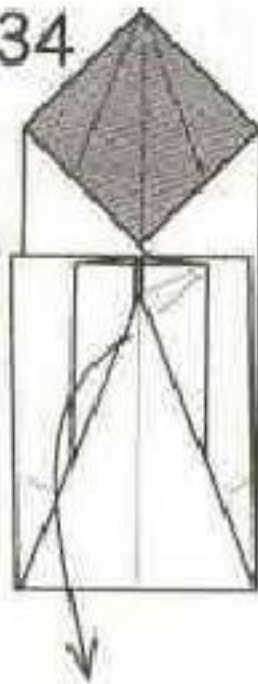
さらに半分に
折り目をつける

33

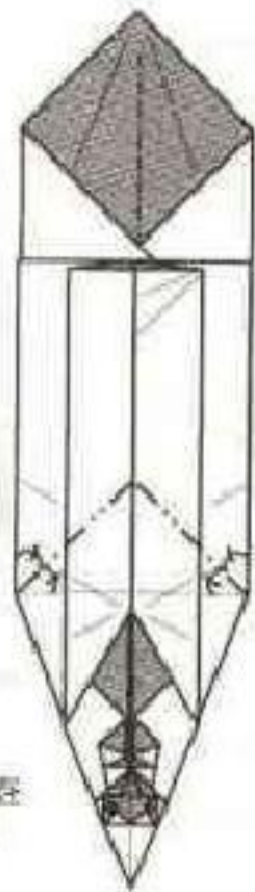


中わり
折り

34

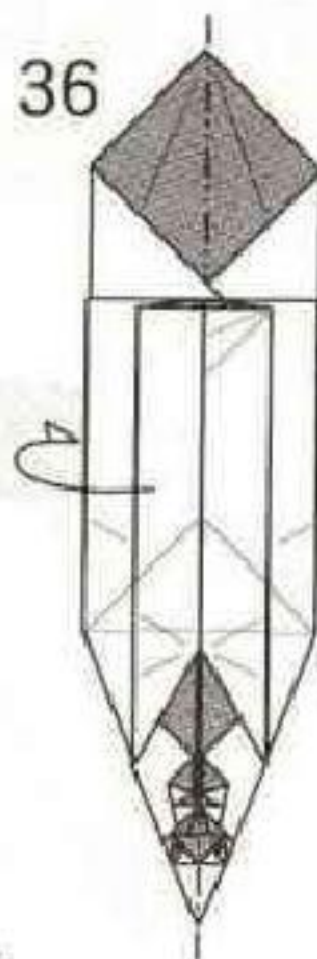


35

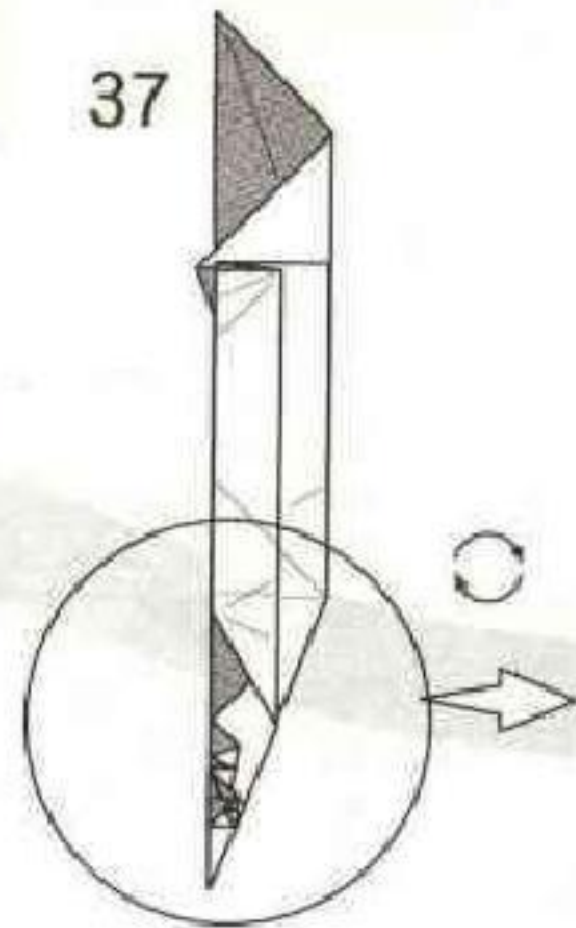


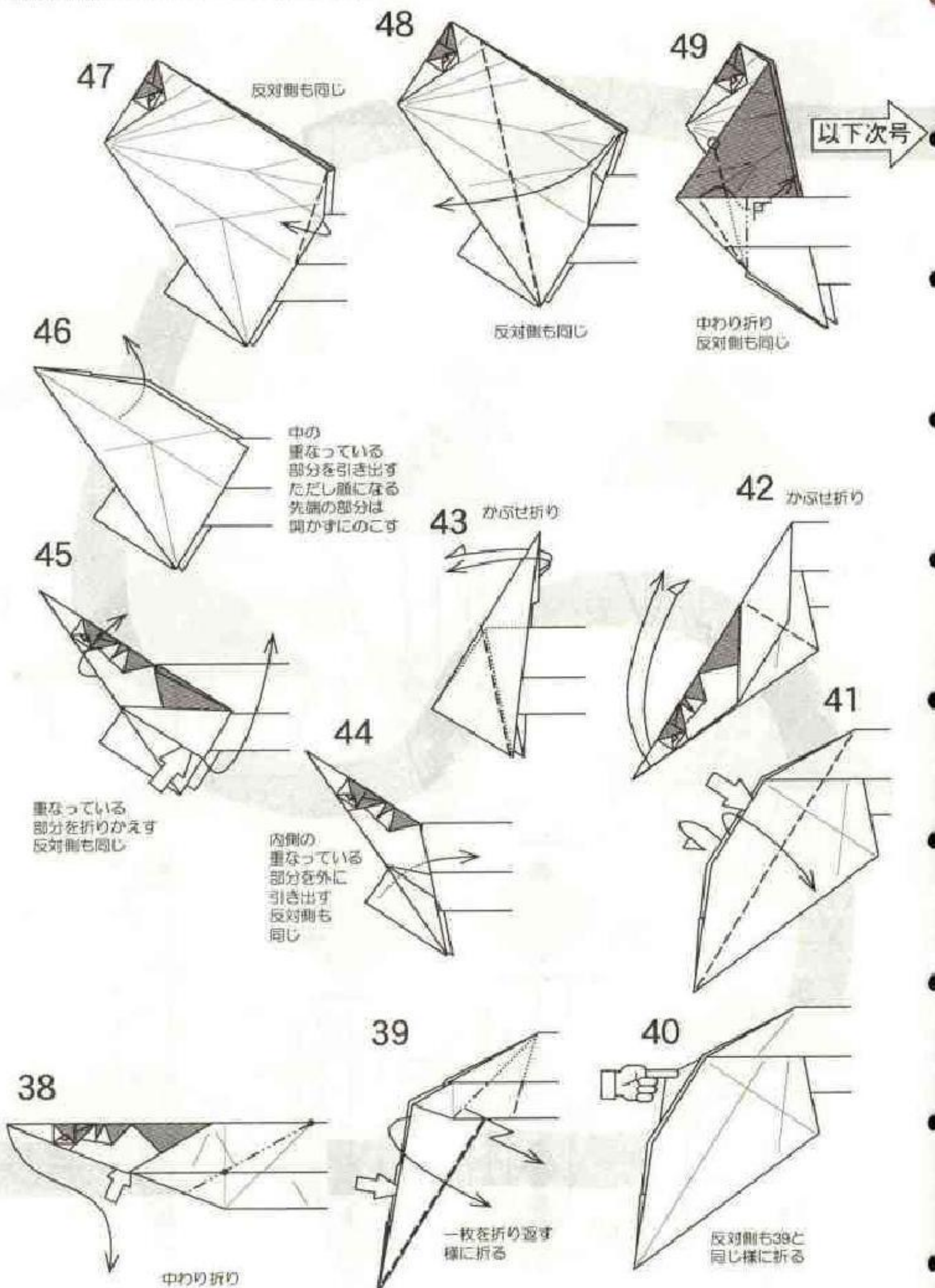
山の
折り目をつける

36



37

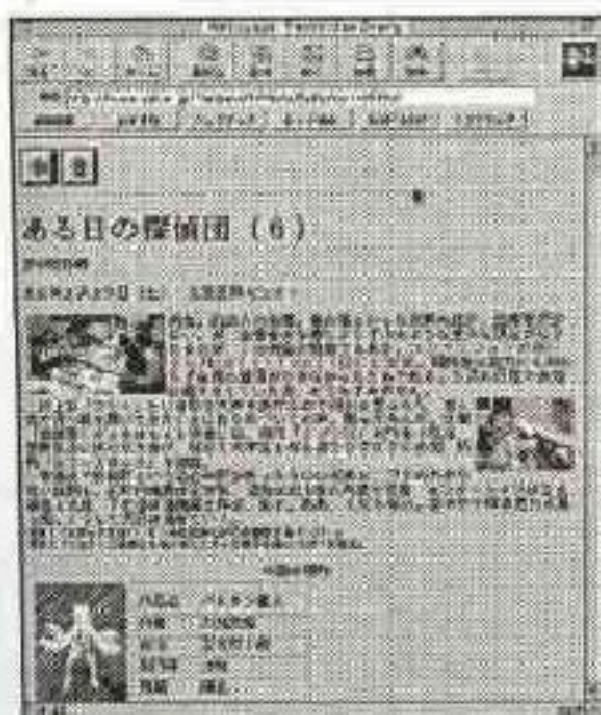




折紙探偵団

オフラインホームページ

まずはこのページのタイトルの話から。「オフラインホームページ」と言われても何のことだかピンとこないひと多いでしょう。「オフライン」というのは、パソコン通信やインターネット利用者の間での俗語です。ネットワーク上でのコミュニケーションを「オンライン」、その他のコミュニケーションを「オフライン」といいます。通信回線を使っていないという意味です。コンピュータ関係にはこの手の俗語や符丁が多く、たとえば、手紙や葉書のことは「郵政省メール」といいます。単にメールといった場合、電子メールのことになります。「ホームページ」というのは、前号にも説明がありましたが、インターネット上の情報発信場みたいなものです。「インターネット」というのは、……さりがなからやめます。



一般公開開始

さて、中西氏の発案で始まった折紙探偵団インターネット計画、成安造形大学との協力話が立ち消えになったり、ホームページ編集長の吉野氏が体をこわして療養中となったりしましたが、少しずつ進んでいます。某国立研究機関のコンピュータを間借りして始めた実験も、二カ月足らずで世界十カ国以上から数百件

の訪問者がありました。表紙に「公共のメディアに公開しないでください」と書いたのにも拘わらずですから、まあまあのだしといったところでしょう。しかし、いつまでも「実験」というわけにもいきません。なによりURL(ホームページの住所です)を公開できないのがつらいということで、有志数人がプロバイダ(インターネットへの接続やコンピュータ資源の貸し出しをする会社)と契約して、一般公開を始めることになりました。公開後はインターネット上の電話帳のようなところにも登録していく予定です。ふらりと寄っていくひと増えるでしょう。世界に広がる折紙探偵団といったところですが、世界に広がるには「探偵団」というのはひとをくった名前ですが、

ところで、これを読んでいるあなたのあなた。あなたの家でパソコンが埃をかぶっていませんか。あなたもインターネットに接続する環境をつくって、探偵団ホームページにアクセスしてみましょう。会員登録すれば、掲示板への書き込みやメンバーズオンリーのページも見ることができるようになります。(会員登録のパスワードは「Pyramid」-大文字小文字の区別あり-です。)

ホームページの中身

一般公開するとなると、問題となるのは内容です。まだまだ充実したものとは言えませんが、次のようなページがあります。探偵団新聞の内容紹介、作品ギャラリー、探偵団の日常スナップ、メンバー紹介……。『折紙辞典』をマルチメディア化した『ハイパー折紙辞典』なるものもあります。どこがマルチで、どこがハイパー(超)なのかはあえてコメントしません。なお、すべてのページは日英のバイリンガルとする予定です。現在は、一見すると英語だけれど実はローマ字のページだとか、「ボランティアで

翻訳してくれるひとを探しています」としか書いていない「英語ページ」などもあります。ローマ字のほうは、海外のひとに日本語をお勉強してもらう意味で、それはそれでいいかなと考えています。そうそう、画像を充実するために、デジタルスチルカメラも購入しました。探偵団の会計に少し余裕があったのでそれを使いましたが、そう高いものではありません。なかなか使いでのある品で、探偵団新聞の編集にも大いに活躍してもらいます。今後の計画としては、インターネットの最新動向も取り入れて、動画ページなどもつくっていく予定です。折り紙作品や折り図(工程図)のデータベースを、なんて話も出ています。いくら暇があっても足りませんね。

協力者募集

というわけで、協力者を募集します。紙原稿をワープロで打ち込んでくれるひと、翻訳が得意なひと、こんなアイデアがあるぞというひとなど、「掲示板」に「スタッフ宛メッセージ」という機能がありますから名乗りを上げてください。

最後に

おっと、一般公開のURLを書くのを忘れていました。

<http://www.ask.or.jp/origami/t/> です。

以上、今回は、発案者にして編集長代理の中西氏が急用多忙のため、スタッフのひとり前川が書きました。前川>中西:わたしだって暇じゃないんだよー。

中西>前川:わかっています。今度おこらせてください。(この部分捏造)





■7期を迎えて快調なすべり出しをしている折紙探偵団。いい意味での個性が出て活動中！皆さんの情報も知らせて下さい。



▲完成した迫力あるゴジラの側で、左から、山口、川津、中野、羽鳥の各氏。

4メートルのゴジラ名古屋に上陸！

格闘技のような作品制作をはじめ、前川氏の分子論。探偵団ならではのパフォーマンス。出演者もこんな楽しい番組だったらもっとやってみたいと感触がよかった。

東海地方三千万のゴジラファンの皆様…いやもとい、折紙ファンの皆様、お待たせいたしました。われらが折紙探偵団がついに東海地方を傘下におさめました。東海テレビ及び長野テレビで4月21日（日曜日）午前10時から放送予定の「テレビ博物館」（司会川津祐介、中野珠子）で折紙が紹介されます。（放送の日程については以下の表を参照下さい。）

まずは、山口真氏と羽鳥公士郎氏が監禁された名古屋のスタジオに、一辺が5m以上の巨大な紙が運び込まれます。この紙でゴジラを折らなければ白山には帰れない。しかし両氏は少しもひるむ様

子を見せず、不敵な微笑みさえ浮かべながら敢然と巨大な紙に挑みかかります。果たして両氏の運命はいかに。いや心配すべきは紙の方か…。

一方そのころ桑名では、博物館と



▲同一型。あやうく紙に食われられそうになって救出された山口氏。



▲徒走。羽鳥氏がこゝろでしまし山口氏一歩リード

折紙は格闘技だ!!

▶授業中。尾の折り方は川津氏と中野氏に教えてもらいました。



小学校を標的とした同時連鶴テロが発生。連鶴を折らなければ決勝ラウンドには進めない…いやもとい、連鶴を折らなければトイレにも行かせてもらえないという緊迫した状況の下で、しかし意外にも子どもたちは和気あいあいと連鶴を折り続けます。果たして連鶴は完成するのか、そして子どもたちの運命は…。

こんな時に頼りになるのは、やはり悪魔の魔力と前川洋氏の知力。羽鳥氏が新幹線の車中で折った悪魔は陰謀によって広げられてしまいますが、展開図になっても魔力は衰えるどころかますます強くなるばかり。そこへ前川氏の分子論攻撃が加われば鬼に金棒・悪魔に五本指。さらに座屈とミウラ折りで仕上げをすれば、なみいる強敵バクバク。この一大活劇にして実は科学番組の終幕をご覧になりたい方はテレビの前にお集まり下さい。

放送日時予定（各30分）

東海テレビ 4月21日（日曜日）午前10:00～
長野テレビ 4月21日（日曜日）午前10:00～
静岡テレビ 4月27日（土曜日）午前5:45～

フジテレビ 4月28日（日曜日）午前5:25～
関西テレビ 4月28日（日曜日）午前6:00～
三響テレビ 5月7日（火曜日）午後4:45～
岩手めんこいテレビ 5月11日（土曜日）午前6:45～
北海道文化放送 5月12日（日曜日）午前6:30～

NHKの衛星第2で4日間連続放送!

おじさんパソコン どうすりゃ委員会?

パソコンブーム?て訳だけでもないのだろうが、ついパソコンを買ってしまうおじさんが多いと聞く。環境を設定すると言えば窓側に置く。起ち上げるといえば、自分が立ち上がってみるといった笑えないような話も聞く。番組ではそんなおじさんを捜してのドキュメントなのだが、岡村氏の優秀さがひときわ目立った番組になっているようだ。

近ごろオジサン向きのパソコン講座が大流行だそう。若いモンに負けたくはないがどうすることもできなくてまごまごしているオジサンたちがいかに多いかということだろう。

折紙探偵団がパソコンで折り図を描いていることは世に有名で、テレビ局が目を付けてやってきた。これからパソコンを始めるオジサンはいないかというので岡村氏が選ばれた。「パソコンだけはやるまいと思っていた。のめり込みそうだから。」(本人談。以下同じ。)

折紙探偵団の連中が多く使っているソフトの名だけを聞いて、勇躍、幕張メッセのマックワールドに出かけて行ったのが2月23日のこと。それから1か月。密着取材ということになった。スタッフは「やらせ」をやらせないという大義名分のもとに、一切教えようとしなくてただビデオを回

しているだけ。その日のうちに購入して帰り、マニュアルを見ながら起動させたそう。

「失敗してまごまごするところを撮ろうとしていることがよくわかったが、なかなか期待にそえなくて。」

予想外に順調だったようだが、せっぱつまって高井氏に電話で教えるを乞うところなどが撮られたそう。少し動かせるようになって山口氏から折り図の指南を受けたが、ちんぷんかんぷんだったらしい。仕方なく入門マニュアルどおりに順序だてて少しずつ進んでいった。

何度目かの自宅での取材のときに「飯島愛がやってきて、こちらが描き方を教えるという場面を撮りましたが、もうめっちゃくちゃ。どう編集するのかなあ。」(ちなみに、飯島愛は家庭教師付きでパソコンを勉強しているらしい。)



▲岡村氏が描いた自画像。とても一ヶ月の技とは思えない。鏡を見ながら描いたそう。使用ソフト KID PIX(キッドピックス)

なんとかかんとか1か月の取材が終った。何人かのビギナーたちを同時に撮っているの、岡村氏のように挫折が少なかった人の場面は面白くないから大幅にカットされるのではなかろうか。せめて折り紙の紹介の部分はカットしないでもらいたいものだ。

「パソコンの前で笑っているところの絵を描けと言われて、お絵かきソフトで自画像を描きました。カラーでご紹介できなくて残念です。」

放映は4月29日から5月2日までの4日間、夜8時からNHK衛星第2。「おとうさん、パソコンどうすりゃ委員会」最終日は生放送です。

日本折紙協会主催

折り紙供養と 紫陽花色紙作品展

紫陽花で名高い文京区の白山神社で、6月8～9日、15～16日の土日に行われる紫陽花祭りで「折り紙あじさい色紙作品」が展示され、15日の土曜日には「折り紙供養」が行われる。折り紙供養は例年11月11日の折り紙の日に行われていたが、行事がいくつも重なるので、白山神社の紫陽花祭りの時期に移行して開催されることになった。これにともない、色紙で構成される紫陽花をテーマにした作品(創作でなくてよい)を、日本折紙協会が募集している。折紙協会の会員でなくても応募できるので、「多くの作品をお寄せ下さい」(NOA事務局) ●問い合わせ先 日本折紙協会 (03) 3262-4764

コンベンション延期のおわび

誠に申し訳ありませんが、前号でお知らせいたしました、コンベンションの開催日を変更させて頂きました。これは、会場を予定日に借りることができなくなってしまったためです。予定を組んでおられた多くの方々には大変な御迷惑をおかけしました。償いでおわび申し上げます。

変更後の日程は、6月22日、23日となりました。内容を充実させるよう準備を進めております。別紙の参加申し込み用紙にて事務局宛にお送り下

さい。多数のご参加お待ちしております。尚、今回は会場近くの本郷に宿を用意しています。大部屋ですが、人数に制限がありますのでお早めにお申し込み下さい。宿泊料金は、朝食がついて7000～8000円です。参加費4000円、懇親会参加費4000～5000円の変更はありません。

申し込み先
〒112東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内
「折紙探偵団コンベンション事務局」宛

おりすじ

特技から趣味へ

宮島 登

幼稚園の時にごく普通のきっかけで始め、それ以来、さしたるブランクもなしに続けてきたにも関わらず、長いこと私は折り紙を「趣味」ではなく「特技」であるとしてきた。

羞恥心から「趣味は折り紙」と言うことができず、対外的には、半ば自嘲的に、折り紙を「奇妙な技＝特技」としてきたのである。

しかし、探偵団に入って同類の人間が多く存在することを知ったこと、バイト先で折り紙を折りまくった際、周りの人に大変好評で、折り紙が結構人に喜んでもらえるということがわかったことなどから、今では、(多少恥ずかしく思いながらも)「趣味は折り紙」と広言できるようになった。実にめでたい。

趣味と言え、音楽鑑賞もその一つだ(ここからが本題)。その対象はひたすらロック(洋楽)なのだが、せっかくなので、この機会に「ロックと折り紙」について書いてみたい。一見、百万光年はかけ離れているもののように感じられるが、実は両者は

深い関係にある、と言いたいところだが、やはり両者の関係は希薄であると言わざるを得ない。それでも私が執念で見つけた数少ないサンプルを紹介したい。

まずは、イギリスの90年代型エレポップバンド、PULP。EP「Sorted For E's & Wizz」のジャケットでは、ドラッグを入れて隠すためのサイフ状の袋の折り方が11工程にわたって描かれている。また、同じくイギリスの元祖ネオアコバンド、AZTEC CAMERAの2ndアルバム「Knife」のジャケットには、しわくちゃになった紙のような物が描かれているが、これが実は折り紙。その証拠に、本作からシングルカットされた「Still On Fire」のビデオクリップではジャケットのイラストがアニメーションで再現されており、画面に浮かんだ伝承のモーターボートが正方形の用紙に戻っていく様子が鮮やかに描かれている。

これだけである・・・。

迷探偵
オリオン 君
作:山岸 和弘

コンベンションだよの巻



新刊書紹介

■ Mythological Creatures and the Chinese Zodiac in Origami

(神話の生物と十二支の折紙)

ジョン・モントロー著 Antroll 刊
A-4判変形 120ページ 定価2060円
送料310円 神話の生物と十二支の折紙作品26点が紹介されている。

■ Origami Insects and Their Kin

(おりがみの昆虫と仲間たち)

ロバート・J・ラング著 Dover 刊
A-4判変形 156ページ 定価2060円
送料310円 カブトムシ、スズメバチなど、折りごたえのある20種の作品が紹介されている。

■ 英語で折り紙 (Origami in English)

山口真著 講談社インターナショナル刊 新書判定価1000円送料240円



折り紙の歴史とやさしい作品の折り方が日英のバイリンガルで紹介されている。折り紙用語の英和/和英辞典としても使えるよ。

●以上3冊の本はおりがみ

はうすに申し込み下さい。

折紙探偵団定期会のお知らせ

次回の例会は5月25日(土)午後1時から9時、文京区民センター3Fです。6月はコンベンションですので、例会はありません。

編集後記

カミノマジックやぶれる! (まこ)

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内
Phone (03) 5684-6040
発行人・吉野一生
編集人・岡村昌夫